令和６年２月１６日

横手市議会議長　小野　正伸　様

出席議員代表
広報広聴委員長　髙橋　聖悟

『市民と議会の懇談会』報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

１．開催日時	令和６年１月３０日（火）午後３時～５時
２．開催場所	横手市役所本庁舎　５階　第１委員会室
３．出席議員	小野正伸、髙橋聖悟、土田百合子、井上忠征、加藤雄太、柴田忍、福田誠、髙橋和樹、播磨博一、菅原正志、齋藤光司、菅原惠悦
４．申請団体	ＪＡ秋田ふるさと青年部
５．参加人数	２３人（議員１２人、ＪＡ秋田ふるさと青年部１１人）
６．テーマ	若手農業者への政策支援について
７．懇談会の内容	司会：髙橋 聖悟　広報広聴委員長 ① 開会 ② 出席者紹介 ③ ＪＡ秋田ふるさと青年部からテーマに関する説明 ・県内農業について（費用助成、情報発信、５年水張り問題、農地の集積、担い手支援等） ・自然災害への対応等について（鳥獣害対策等） ④ グループごとの意見交換 ⑤ 各グループで出された意見の報告 ⑥ 閉会

８．意見交換の主な内容

①Ａグループ（小野正伸、井上忠征、齋藤光司）

・農業は選択肢がたくさんあるが、米価をはじめ農産物の価格がずっと低く、コストがかかるので収益が上がらない。そこが一番問題である。
・消費者の生活を守るという部分と、生産者の生活を守るという部分が相容れない。
・横手の農業の下支えをしているのは稲作なので、底辺が良くなれば全体的な底上げができると思うがなかなか難しい。
・水田の５年水張り問題が大きい課題。
・水のかからないところはほかの作物にするのを頑張ってもらいたい。
・補助金に頼らないで物を作って収益を上げなさいということだろうがなかなか大変だ。
・あきたこまちＲについて、生産者はいいと思っているが消費者団体のほうが問題にしている。生産者以上に消費者の方々が安心だと納得してもらえれば一番いいが、急に決まった感じがあるので議論が足りないのではと思われがちである。
・あきたこまちＲは農家でも作りたくないという人はいる。
・若手の担い手が増えないのでどうしていけばいいのか。
・農業自体に興味はないがＩＴに興味がある人たちが一定数いるので、その方たちを市などで集めてマッチング制度を作ってみてはどうか。
・若手農家が年間を通して仕事をするためには冬場の除雪オペレーターも重要である。
・クマ捕獲用の檻が不足している。

②Ｂグループ（加藤雄太、髙橋和樹、播磨博一）

・米の費用助成は引き続きお願いしたい。
・高齢化などによる担い手不足について、機械の更新費用を理由に稲作をあきらめるケースが出ている。それに対する補助も継続して必要なのではないか。
・あきたこまちＲの情報が歪んだ悪いイメージにとられている。県も市も農協もきちんとした情報発信をしていくべき。もっと時間をかけるべきだったのではないか。
・あきたこまちＲについて、米農家でさえ分かっていない人がいる。関心が薄い生産者もいるのでしっかり周知していく必要がある。
・あきたこまちＲは海外に輸出する手段としていいことだと思う。県のほうで積極的にＰＲしてほしい。
・インボイスについて、大きい農家や法人は取得しているが、大半は猶予期間で未取得である。また、仲間内との足並みをそろえる問題もある。いずれにしても、手間や経費が農家に重くのしかかっている。
・果樹について、2011 年の雪害の際はいろいろな助成があり、その後の雪害に対策できたが、農薬費の助成は維持してほしい。
・農道の除雪や消雪剤、ドローンなどに対する助成も必要だと思う。
・耕作放棄するよりソバなどを栽培し、販路の開拓をしてはどうか。

・農業をやりたがっている若者は間違いなくいる。しかし、一農家、一法人での取り組みには限界がある。農家と加工場がタッグを組んで両面で人材を募集すれば広がりがあるのではないか。
・市などで土地を借り上げ、地域おこし協力隊に農業をやってもらい、さらに商品加工等も付随させたらどうか。
・女性生産者の売り込みが必要ではないか。
・外国人人材は受け入れにくい面もあると思う。
・市職員に狩猟免許を取得してもらい、専門職を置いたらどうか。
・クマの罠を作るのが上手な人がいるので、そういう作業をどうにかできないか。
・ＪＡと行政の連携について、行政の主導にはどうしても限界がある。その道のプロであるＪＡに主導権を握ってもらって市が追随したほうがうまく進むと思う。役割分担が重要。

③Ｃグループ（髙橋聖悟、土田百合子、菅原正志）

・稲作について、機械購入による莫大な借り入れの不安がある。機械のシェアや共同購入を考えなければならないのではないか。
・コストがかかっているのに米価が上がらない。
・栽培基準が違う農協の米の価格と業者の価格が同じことが心配。
・今の法人は助成金をもらうためにどんどん水田を増やしているが、管理もできていないし、いい米も作れない。挙句の果てに壊してから返すという悪循環ができている。
・米に関しては中間管理機構から委託され生産しても、結局やり手が損をしてしまう。
・ブドウについて、資材等の値上がり、市場価格低迷、天候不良などにより収益が上がりにくくなってきている。
・アシストスーツは試してみないと良さが分からない。市でサンプルとして農家に貸し出して使ってもらうようにしたらもっと普及するのではないか。
・農作業を請け負う人手不足、人件費の高騰が問題である。
・農作業に従事する人材派遣会社を作ったらどうか。外国人労働者でもいいのではないか。
・農協の求人マッチングはうまくいっていない。ネットでやり取りができればもっと楽になる。受ける側の農家が公開する情報量が少ないのも課題。
・自分たちの農産物の価値を高めるためにはいろんな方法でアピールする必要がある。
・ふるさと納税の返礼品にもっともっと参加するべき。
・ふるさと納税に使用する農産物について、市の説明が足りない。
・プレミアム付商品券について、横手市の農産物の購入枠を設けたらどうか。
・農業は男性中心のイメージだが、箱詰めなど女性が参加できる部分は多くある。女性が参加しやすいような、女性の興味を引くような情報発信をしていくべきではないか。

④Ｄグループ（柴田忍、福田誠、菅原惠悦）

・農業の担い手減少が大きな課題である。組織力も落ちてきており、様々な負担の増加を感じている。若手がいなくて高齢者の農業従事者が頑張っている状況である。
・若いうちに投資ができる環境を整え規模拡大をしてもらわないと、現在の農地維持は難しい。
・災害などに対する支援、安心して営農できる環境、新規参入しやすい仕組みづくりを市や農協、農家が一体となって整え、仕事しながら農業をする人の割合を増やしていき、最終的には農業で一本立ちできるような支援が今後急速に必要になってくるのではないか。
・人・農地プラン、農地の譲り渡し、地域計画の策定を行政と農協でやっていると思うが、その情報が下りてこない。守秘義務の観点もあると思うが、若い人を含めてちゃんと議論できていないのではないか。
・経営力の強化が必要。農業のプロであっても経営のプロではないので、経営の視点からも人材を育てていかないと、農地ばかり増えてどうしたらいいのか分からない状況に追い込まれる。
・知識をもっとつけてもらうようなソフト面での支援も求められているのではないか。
・作業工程や収益表などの細かなフォローも必要ではないか。
・今までの農業は販売を農協に任せてきたので、販売にどれだけ経費がかかるか分からない人たちが多い。
・収益がないと若い人たちも農業に足を踏み入れてくれない。販売力の強化について市として何ができるのか。専門の販促員をつけるなど、継続的にファンを作るところに予算を投下してほしい。
・一般の農家の方々がふるさと納税用の農産物販路など、農協だけではない方向に視野を広げれば新たな展開に変わってくるのではないか。
・地元の物を宣伝する事業展開、販路に経費をかけてもいいのではないか。
・今後横手市として何をしていくのか、何をやめていくのかというのを考える時期にきているのではないか。選択と集中が必要なのではないか。
・米ではなく園芸で何を選択していくか今後突き詰めて産地化をしていかないと、優位的な農産物の供給を目指すことができないのではないか。
・特徴のある農産物がないと横手市という地名のブランドがつかない。
・今のネット社会において、旧来の広報紙、農業新聞などでの情報発信では足りない。

９．出席議員所感

≪小野正伸　議長≫

久々に若い農業者の皆さんとの懇談会は、自分自身の刺激にもなり、大変良い機会になったと思う。生産資材の高騰や価格の低迷にあっても、自分の生業として立派に経営されている姿にたくましさを感じた。まだまだ捨てたものではない。本市の基幹産業としての位置付けを確たるものとしていくためにも、今後とも有効な支援策を継続願いたいものである。
『夢ある農業を目指して！　がんばれ、ＪＡ青年部！』

≪髙橋聖悟　広報広聴委員長≫

若手農業者とのグループディスカッション、大変有意義だった。率直な話から悩み、要望まで時間たっぷり話したと思う。今後は彼らの意見を加味しながら農政についてしっかり勉強し、政策提案もしていきたいと思う。農業は奥深い部分があるのでまだまだ話し足りなかった部分も彼らにはあるだろう。第２回の開催を模索しながら、また農政について議論を交わしていきたいと思う。終わりに１つ面白い提案をされた。農産物のためだけのプレミアム商品券があってもいいんじゃないかということだった。面白い。

≪土田百合子　議員≫

米についての意見交換では、「米価と資材コストが全く合っていないし、機械を購入したとしても５、６年で買い替えなければならず、稲作を継続していくことは難しくなってきている」、「忙しい時に手伝ってくれる人材がほしいが、長く続けてくれる人がいない。高校生バイトも難しくなっている。今後の経営に対し不安を感じている」といった切実な声があった。私のグループは、稲作･西瓜･ぶどう農家の代表だったこともあり、現場の声を聴くことができた。今後の取り組みとして、①農産物を高めるため、ふるさと納税の返礼品に横手米をはじめとする農産物を入れてはどうか、②体を支えるアシストスーツをお試しに使用できるように市が購入して試験的に貸し出しすることにより購入する人も出てくると思う、③今日の意見交換にも女性の参加者がいないが、興味を引くような女性参画の仕組みが大事だ、といった意見交換があった。農家の高齢化や後継者不足が懸念される中、これからの農業を支えていく若者の声を聴くことができ素晴らしい意見交換となった。青年の熱と力によって横手の美味しいご飯が食べられることに感謝したい。

≪井上忠征　議員≫

参加したグループで農業全般にわたって意見交換したが、特に①事業として収益確保、②担い手不足（後継者不足）、③害獣対策の３点について所感を述べたい。①個人事業主として経営・生活が成り立つことが大事であり、作付品目や季節ごとの仕事等、年間を通じた業務体制を整備して、収益を確保することが重要と思われた（既に実施しているメンバーもいた）。なお、各種の補助金や助成も有効に活用すべきとの意見があった。②担い手不足の関係では、農業に新規参入する方は意識の高い人が多いが、従来からの農家では、寧ろ親の方が

農業を継がないよう勧めている場合もあるとのことで、やはり①と同様に、自立できる経営を可能にすることが、担い手問題の解決に繋がると思われた。③害獣対策としてクマの問題が大きくなっていることから、狩猟を行う人材の育成や檻の購入等について、人的被害防止の観点からも支援を行う必要があると思われた。最後に、参加された皆さんが農業を取巻く様々な問題について考え、解決に向け奮闘している姿に敬意を表すとともに、農業は食料自給や国土保全の面でも重要な役割を果たしていることから、議会としても課題をしっかり捉えて、必要な支援を協議していきたいと思った次第である。

≪加藤雄太　議員≫

自分自身農業に縁が薄い 30 年余りを過ごしてきたが、現在そしてこれから更に横手の農業を支える若手の方々と一緒に、抱える課題や今後に向けたアイデア等を話し合う貴重な機会となった。どうしても自然相手の仕事となるため、昨今の異常気象による影響が大きく響く中でも、それぞれが工夫と努力で立ち向かわれているお話を聞き、本当に頭が下がる思いだった。この異常気象がある意味当たり前であり通常になっていくことが考えられる中、行政としては限界はあるものの補助や助成による支援を行うと共に、とにかく足を引っ張るような政策を打たないことが求められるのではないかと強く感じた。今後も引き続き意見交換についての場を設けてもらい、直接現場の声を聴くことができる機会をいただければ思う。

≪柴田忍　議員≫

ＪＡ青年部の皆さんは農業経営の問題点として、圃場整備費、販促費などの調達に苦戦しているように感じられた。議会側からできることは何か模索し、互いに話し合いを重ねながら協力していきたいと思う。

≪福田誠　議員≫

農業や農協の課題について、門外漢の私が勝手なことを申し上げてしまった。特にＳＮＳを含めた横手市の情報発信を提案させていただいた。業界の外側から応援できるのではと感じた次第である。

≪髙橋和樹　議員≫

特に感じたこと。

１、稲作について、米価と生産コストが合わない状況が続くと、今後の継続は難しい。

２、あきたこまちＲに関して、生産者と消費者に対しての説明不足が目立つ。双方の理解を得るためには、各機関は更に努力してもらいたい。

３、行政には、冬期間の農道の除排雪に力を貸してほしい。

４、市の創生大学の研修生との交流を、もっと増やしてもらいたい。

５、耕作放棄地の増加への対策をＪＡと連携して対処してもらいたい。

≪播磨博一　議員≫

自分とは世代や地域、作目も違う若手農業者との懇談はそれぞれの経営や地域の実情、仲間などの話題が提供され、併せてやりがいや楽しみ、課題など幅広く聴くことができた。１回目ということもあり、顔合わせ的なところもあったと思うが、話が深くならなかったのはもったいなかった。彼らはこれからの横手の農業を担うリーダーの集まりなので、議論が深まるようにテーマを整理するなど内容に工夫を加え、次回に期待したい。

≪菅原正志　議員≫

開催そのものについては、参加者からも議員と話せる機会を得て有意義であったと聞いている。一方で、話し合いの進め方については工夫すべきだと思う。議員はできるだけ聴くことに重点を置くべきである。見解の違いはあるにしても、話の途中に入らないとか、否定しないとか、持論を展開しすぎないといった話し合いのルールに気をつければよいのではないか。委員長一人で頑張るのではなく委員会として役割分担なども考えてはどうかと思った。

≪齋藤光司　議員≫

まずは若さを羨ましいと思った。ただ、自分も農協青年部で育てられ鍛えられた経験から率直に言わせてもらえば、頑張れば頑張るほど結果もついてきた時代と今の時代で農業を生業としてこれから生きていかなければならない世代との価値観の違いに改めて考えさせられた。今、農業で他産業並みの報酬を得ようとすれば、家族を含め周りの多くの協力と難儀を強いる。農家人口はこの地域でも少数派になってしまった。それにより政治力も失われつつあると思う。今後もっともっとこの傾向が強くなるものと確信している。農業は基幹産業だと言うならば、頑張りが報われる職業にしていかないとと改めて考えさせられた。まずは今回がスタート。彼らから知恵を借り、我ら世代の経験をプラスしてできるところから迅速にやっていきたいと思う。青年部の皆さん、ご苦労様でした。ありがとう。

≪菅原惠悦　議員≫

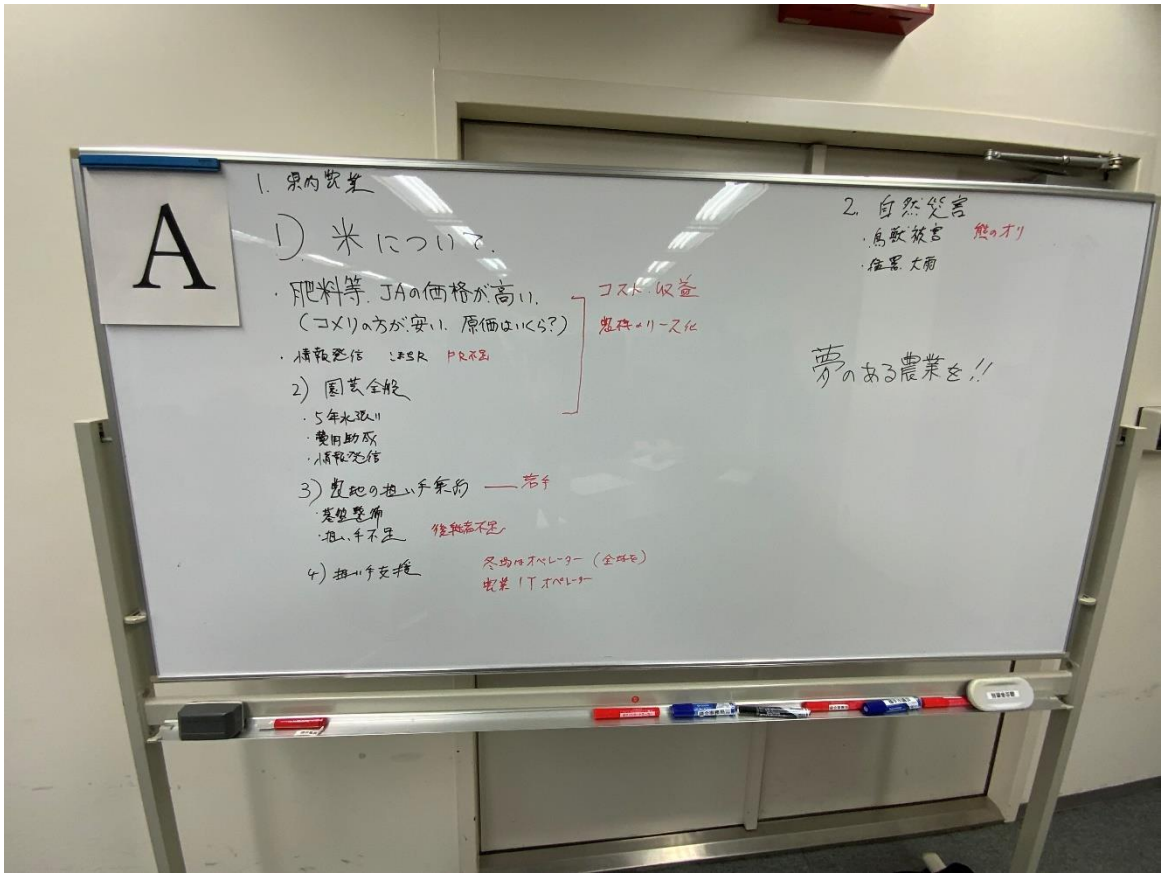
少子高齢化時代はＪＡ青年部活動に影響している現状、また、販売ルートは経営に大きく影響していると私は感じた。そこで、市が首都圏などでトップセールスを展開している事業にＪＡ青年部員の知恵や協力をお願いし、一緒に横手産品のＰＲを計画してはどうか。農業者・農家にとって身近に感じられる存在として、ＪＡ青年部の活発な事業展開に期待し、協力できればと感じたところである。

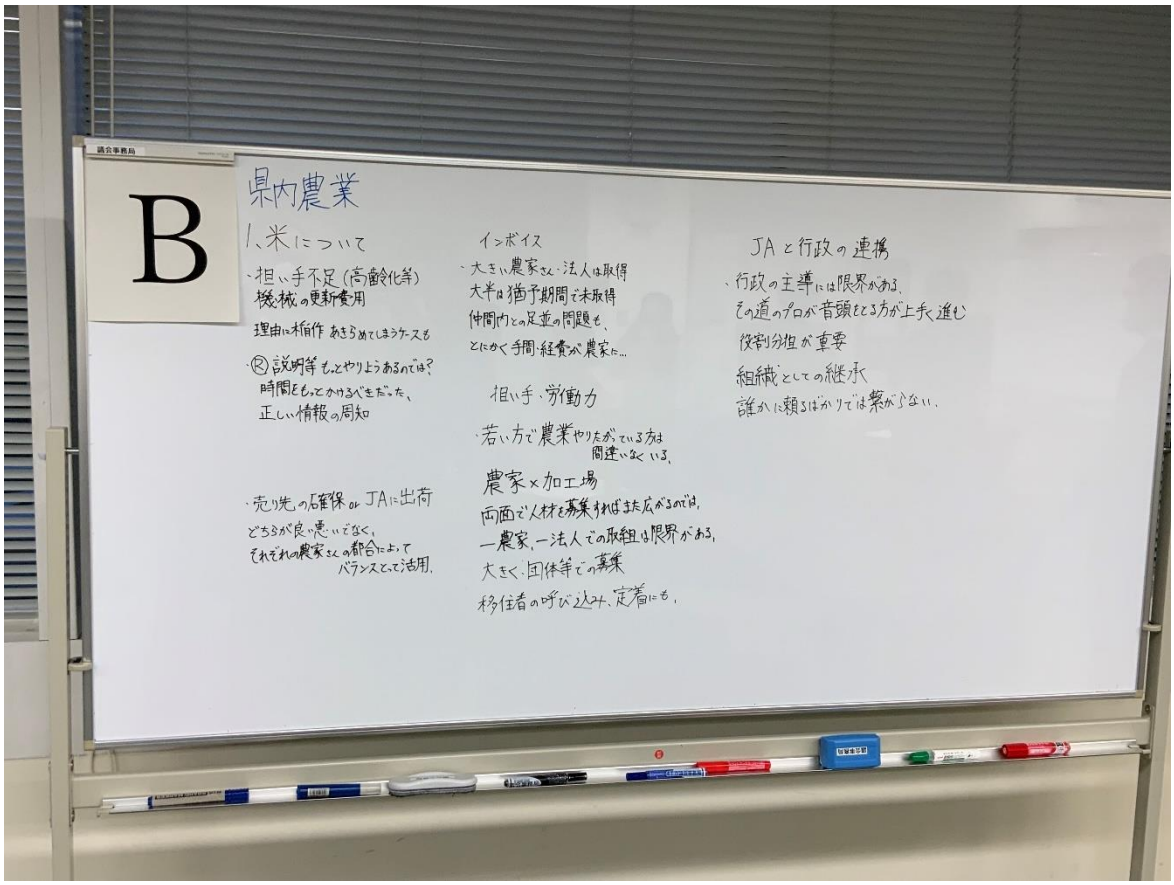
１０．懇談会の様子

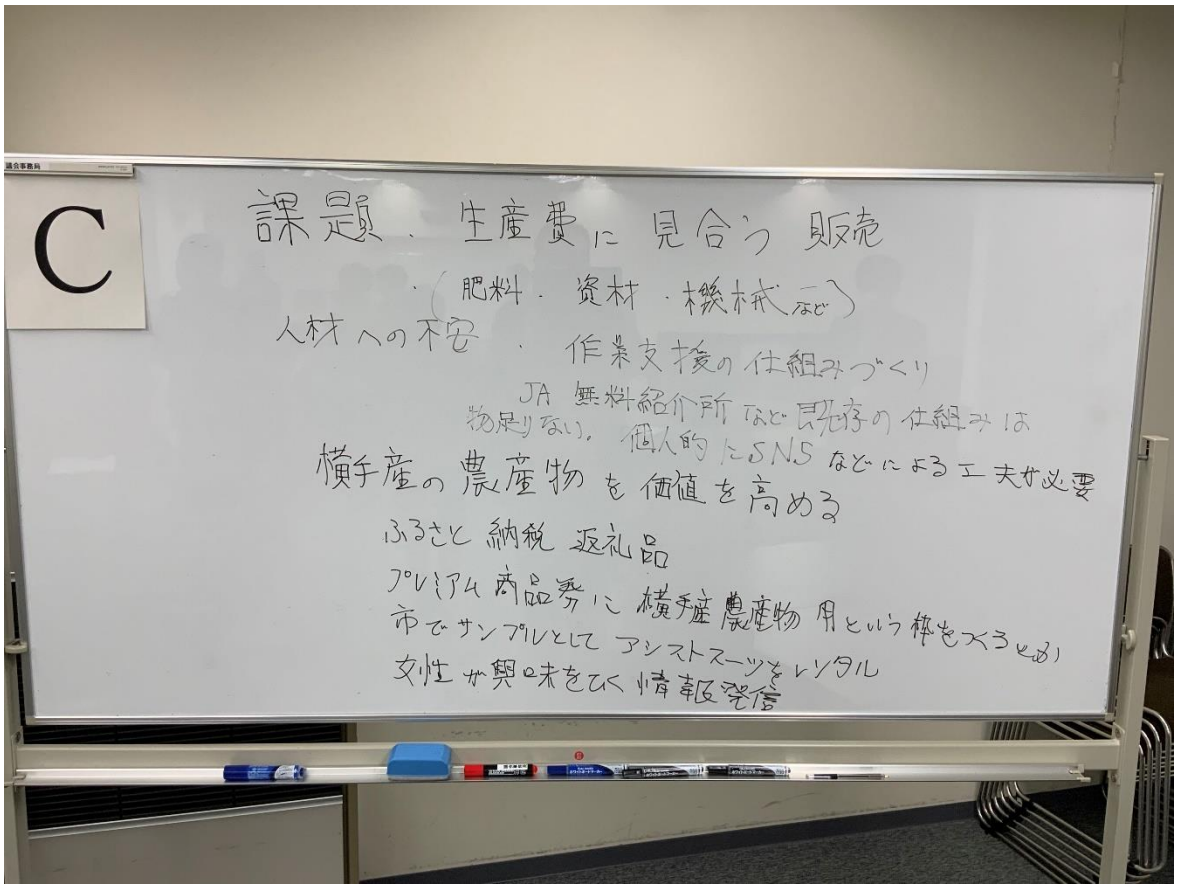
A

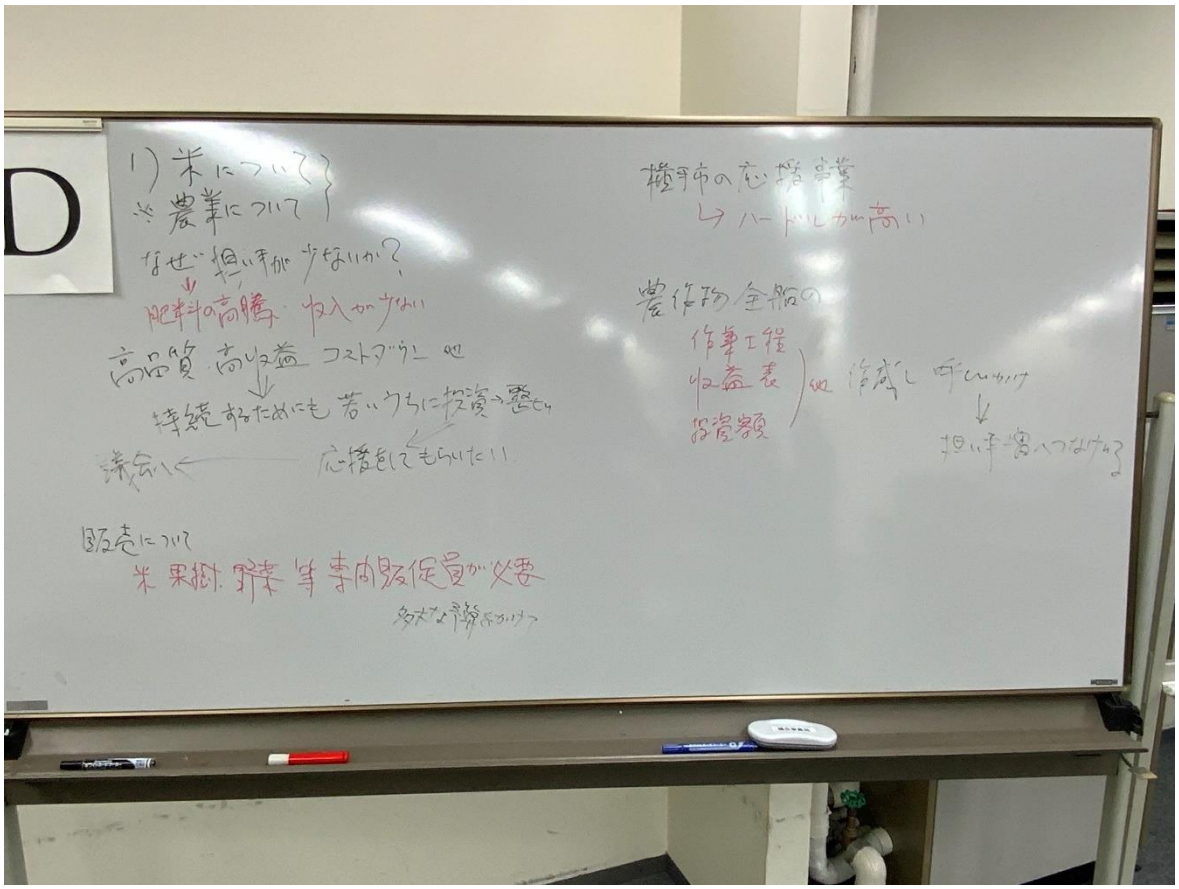
C

D


A
1. 県内農業
1) 米について
・肥料等 JAの価格が高い
(コメリの方が安い 原価はいくら?)
・情報発信
2) 園芸全般
・5年水張り
・費用助成
・情報発信
3) 農地の担い手集約 ― 若手
・基盤整備
・担い手不足
4) 担い手支援
コスト 収益
農作業リーズ化
2. 自然災害
・鳥獣被害 熊のオリ
・企業 大面
夢のある農業を!!


B
県内農業
1、米について
・担い手不足（高齢化等）
機械の更新費用
理由に稲作 あきらめてしまうケースも
・Ⓡ説明等 もっとやりようあるのでは？
時間ともってかけるべきだった、
正しい情報の周知
・売り先の確保 or JAに出荷
どちらが良い悪いでなく、
それぞれの農家さんの都合によって
バランスとって活用。
インボイス
・大きい農家さん・法人は取得
大半は猶予期間で未取得
仲間内との足並の問題も、
とにかく手間・経費が農家に…
担い手・労働力
・若い方で農業やりたがっている方は
間違いなくいる。
農家×加工場
両面で人材を募集すればまた広がるのでは。
一農家、一法人での取組は限界がある。
大きく、団体等での募集
移住者の呼び込み、定着にも。
JAと行政の連携
・行政の主導には限界がある。
その道のプロが音頭をとる方が上手く進む
役割分担が重要
組織としての継承
誰かに頼るばかりでは繋がらない。


C
課題、生産費に見合う販売
（肥料・資材・機械など）
人材への不安・作業支援の仕組みづくり
JA無料紹介所など既存の仕組みは
物足りない。個人的にSNSなどによる工夫が必要
横手産の農産物を価値を高める
ふるさと納税 返礼品
プレミアム商品券に横手産農産物用という枠をつくるとか
市でサンプルとしてアシストスーツをレンタル
女性が興味をひく情報発信


1) 米について
※ 農業について
なぜ担い手が少ないか？
肥料の高騰 収入が少ない
高品質 高収益 コストダウン
継続するためにも若いうちに投資→楽
応援してもらいたい
販売について
米 果樹 野菜 等 事前販促員が必要
多大な時間かかる
樹木の応援作業
ハードルが高い
農作物全般の
作業工程
収益表
設備額
減少し 手間かかる
担い手増へつながる